

はじめに

環境法に限らず、どの法律科目においても、司法試験で合格レベルに達するために必要なものは、①過去問、②（重要）条文、③（重要）判例、④論証、⑤学説（解説）の5要素だと思われるが、さらに「上位」合格するために必要なものは？と問われれば、その答えは、⑥新作問題をできるだけ多く解くこと、だと思われる。

筆者は、令和元年司法試験論文・環境法を1位で合格したが、思い返せば、①～⑤だけでなく、市販の問題集や予備校の答練・模試などで、新作問題をできるだけ多く解くようにしていた。本講座の問題は、（今後も繰り返し出題が予想される）過去問で問われた重要論点だけでなく、まだ未出題の重要論点も多く採り上げ、端的な解説と丁寧な答案例で受験生の「上位」合格に貢献したいという方針で作成されたものである。

受験生各位は、まずは、「総合講義」「過去問解析講座」「論証集の『使い方』」のテキスト及びそれらの解説講義で①～⑤をしっかり身に付け、そのあと本テキスト及びその解説講義で「上位」合格を狙えるだけの実力を身に付けてほしい。

本テキストには、全部で30問が収録されている。毎日1問ずつあたっても1か月で回せる分量である。基本問題（全23問）であれば各問30分～45分、総合問題（全7問）でも各問60分～90分程度で学習できるボリュームであるから、無理なく進めることができると思われる。

そして、その30問の内訳は、司法試験（予備試験）六法に掲載された「環境10法」について、過去問で判明した重要度（出題頻度）に応じて、次のような配分としている。

廃棄物処理法	全8問（基本6、総合2）
大気汚染防止法	全4問（基本3、総合1）
水質汚濁防止法	全4問（基本3、総合1）
土壤汚染対策法	全4問（基本3、総合1）
環境影響評価法	全2問（基本1、総合1）
自然公園法	全2問（基本1、総合1）
環境基本法	全1問（基本1）
循環基本法	全1問（基本1）
容器包装リサイクル法	全1問（基本1）
地球温暖化対策推進法	全1問（基本1）
景観法	全1問（基本1）
生物多様性基本法	全1問（基本1）

※景観法と生物多様性基本法は、「環境10法」の中には入っていないが、それに準ずる重要度であり、今後の出題も予想されるため、加えることとした。受験生各位は、本テキストを使って、ぜひ環境法の「上位」合格を狙ってほしい。